

2023年10月23日

学位論文作成における生成AIの使用について

神戸大学理学研究科化学専攻教員会議

2024年3月博士課程修了予定ならびに修士課程修了予定のみなさんが学位論文を執筆するにあたって、生成AI（会話型AIと翻訳AI）をどのように使うべきか、あるいは使うべきでないかについて化学専攻教員会議で議論して9項目のガイドラインを作成しました。

1. 教育研究に生成AIを使うことの功罪についていろいろな意見があります。しかもAIの性能やしくみはどんどん変化しています。あなたが学位論文を作成するときに生成AIをどう使うべきか/使うべきでないかを、あなたの指導教員にかならず相談してください。論文を提出する間に相談するのではなく、論文を書き始める前に相談することを強く推奨します。
2. 学位論文の作成に生成AIを使った場合には、どのAIをどのように使ったかを最終章の後ろ、謝辞がある場合には最終章と謝辞のあいだに独立項目をたてて明記してください。
3. 学位論文の主体は文章であり、生成AIはあなたの指示に応じて文章を作成します。AIが生成した文章をそのまま自分が書いたものとして提出することを禁じます。
4. 情報収集に生成AIを使用したときには事実確認が必要です。AIが作成した文書に真っ赤な嘘といってもよいほどの誤りが含まれることはめずらしくありません。提出した論文に事実誤認があった場合の責任は事実確認を怠ったあなたにあります。
5. 生成AIが作成した文書に誤りがなくても、その文章はどこかの誰かが書いた語句の継ぎ合わせです。あなたに剽窃の意図がなくても、文献データベースを用いた重複チェックを学位論文にかけたときに剽窃と判定される可能性があります。生成AIが収集した情報を利用することはさしつかえありませんが、学位論文はあなた自身の言葉で書くべき文書です。

6. 出典（引用文献）として生成AIを引用してはいけません。同じ質問を同じAIにしたときに同じ回答が返ってこないからです。あわせて、自分が読んでいない文献を引用してはいけません。文献データベースをキーワードなどで検索して先行研究を見つけることは大いにやってほしいですが、検索にヒットした文献のタイトルあるいはアブストラクトだけを見て引用してはいけません。
7. データ処理やグラフ作成に必要なプログラムを生成AIに作らせることが可能になりつつあります。AIが作成したプログラムを使うときは、プログラムが正しいかどうか、バグがないかどうかをかならず自分で確認してください。本番データをいきなり処理するのではなく、あなたが作成した動作確認用のテストデータを入力して出力内容の正否を確認してから使ってください。万一、誤りのあるプログラムを使って誤った結論を導いたとしたら、誤謬の責任はあなたにあります。なお、プログラム作成に生成AIを使ったことを項目2にしたがって明記してください。
8. 日本語で書いた論文草稿を英語に翻訳する、草稿の日本語をより読みやすい日本語に添削する、あるいは英語で書いた草稿の英文添削をするときに翻訳AIを使うかもしれません。AIが翻訳または添削した文章の単語や表現が正しいかどうかを自分でチェックしてください。また、翻訳や文章添削に生成AIを使ったことを項目2にしたがって明記してください。AIではなく人間による翻訳サービスを使った場合も同様です。
9. 項目8に関連して大切な注意があります。現在の生成AIと翻訳AIはユーザーが入力した文章を記録していて、別のユーザーへの回答に使ってしまう場合があります。ゆえに、研究成果を含む文章を添削にかけるとその内容が第三者に漏洩する恐れが生じます。漏洩がどの程度まで許されるか/許されないかは、その成果を投稿論文としてすでに公開しているかどうか、研究の内容、さらに共同研究相手先との関係などによって変わります。あなた自身の研究成果を含む文章を添削にかけるときは、かならず事前に指導教員に相談して許可をとってください。